

# 事業報告書

令和4年度

(第15期事業年度)

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

# I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

## 1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

## 2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

## 3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

## 4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

## 5 所在地（令和 4 年 4 月 1 日現在）

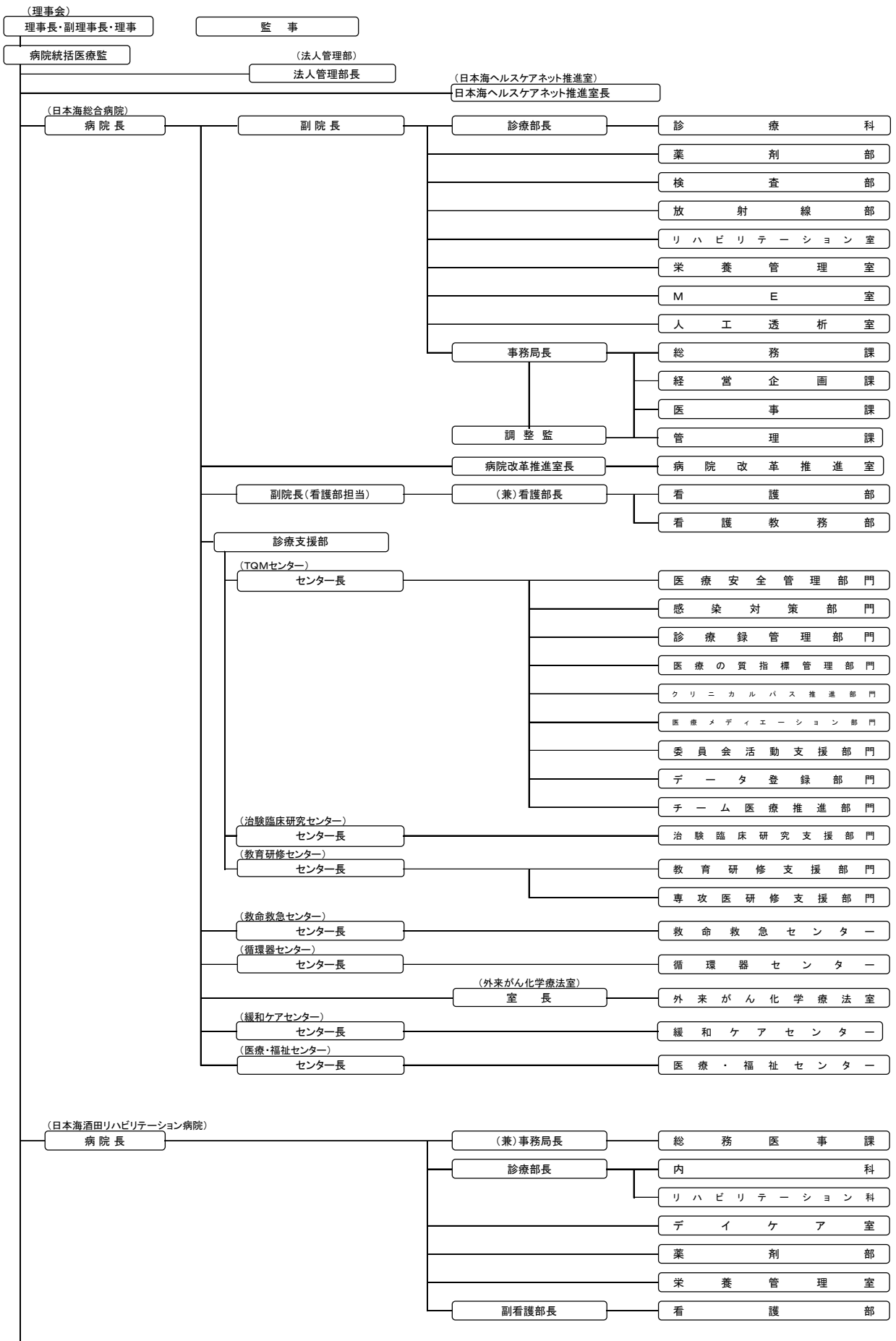
- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

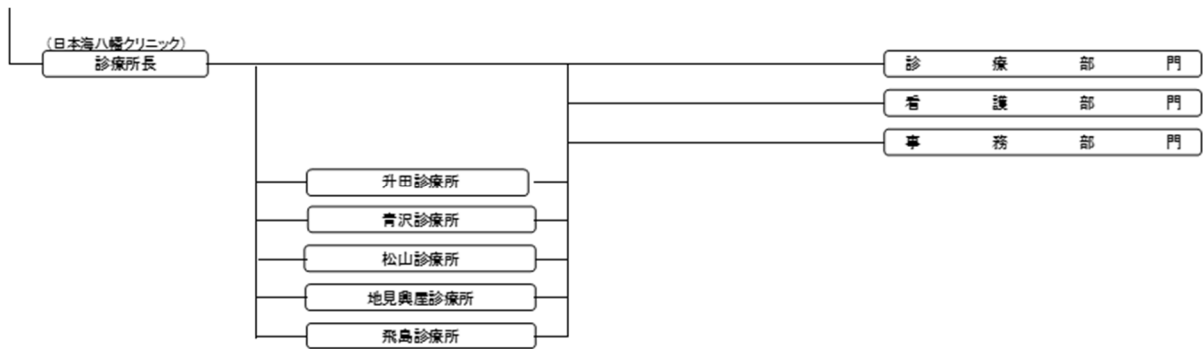
日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

## 6 役員（令和4年4月1日現在）

役職	氏名	任期	経歴	備考
理事長	栗谷 義樹	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成20年4月 日本海総合病院、酒田医療センター 病院長 平成28年4月 現職	病院統括医療監
副理事長	島貫 隆夫	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成26年4月 日本海総合病院院長代理 平成28年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理事	鈴木 晃	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理事	内村 文昭	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	柏 英雄	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	金子 尚嗣	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	中村 美穂	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成27年4月 日本海総合病院副看護部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部長)
理事	松本 宏	令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日	平成30年4月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成31年4月 現職	法人管理部長
監事	齋藤 俊勝	令和2年8月20日 ～ 令和5年度につい ての財務諸表の承 認の日	昭和48年6月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成20年4月 現職	公認会計士
監事	加藤 栄	令和2年8月20日 ～ 令和5年度につい ての財務諸表の承 認の日	平成24年8月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成20年4月 現職	弁護士

# 7 組織 (令和4年4月1日現在)





## 8 資本金の状況（令和5年3月31日現在）

	令和3年度 (令和4年3月31日)	令和4年度 (令和5年3月31日)	増減
資本金合計	19,624,389,029円	19,624,389,029円	0円
山形県出資金	11,527,033,307円	11,527,033,307円	0円
酒田市出資金	8,097,355,722円	8,097,355,722円	0円

## 9 常勤職員の状況（令和5年3月31日現在）

病 院		日本海総合病院			日本海酒田リハビリ テーション病院			診療所		
		R03	R04	増減	R03	R04	増減	R03	R04	増減
医師・歯科医師	職員数	160	155	△5	4	4	0	2	2	0
	平均年齢	39.6	40.1	0.5	61.5	62.5	1.0	49.0	47.0	△2.0
医療技術員	職員数	164	171	7	48	47	△1	1	1	0
	平均年齢	39.1	38.7	△0.4	33.6	33.9	0.3	34.0	35.0	1.0
看護・介護職員	職員数	592	580	△12	57	55	△2	8	11	3
	平均年齢	39.6	39.6	0.0	48.8	48.7	△0.1	55.5	55.0	△0.5
事務職員	職員数	48	50	2	4	4	0	2	2	0
	平均年齢	38.5	39.8	1.3	44	45	1.0	51.5	52.5	1.0
スタッフ職員	職員数	31	29	△2	3	3	0	0	0	0
	平均年齢	48.1	48.7	0.6	45.7	46.7	1.0	—	—	—
計	職員数	995	985	△10	116	113	△3	13	16	3
	平均年齢	39.7	39.8	0.1	42.7	42.9	0.2	52.2	52.4	0.2
法人職員	職員数	995	985	△10	115	113	△2	11	14	3
	平均年齢	39.7	39.8	0.1	42.6	42.9	0.3	53.3	53.1	△0.2
県派遣職員	職員数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均年齢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市派遣職員	職員数	0	0	0	1	—	△1	2	2	0
	平均年齢	—	—	—	56.0	—	△56.0	46.5	47.5	1.0

病 院 職 種		法人計		
		R03	R04	増減
医師・歯科医 師	職員数	166	161	△5
	平均年齢	40.2	40.8	0.6
医療技術員	職員数	213	219	6
	平均年齢	37.8	37.6	△0.2
看護・介護職 員	職員数	657	646	△11
	平均年齢	40.6	40.7	0.1
事務職員	職員数	54	56	2
	平均年齢	39.4	40.6	1.2
スタッフ職員	職員数	34	32	△2
	平均年齢	47.9	48.5	0.6
計	職員数	1,124	1,114	△10
	平均年齢	40.1	40.3	0.2
法人職員	職員数	1,121	1,112	△9
	平均年齢	40.1	40.3	0.2
県派遣職員	職員数	0	0	0
	平均年齢	—	—	—
市派遣職員	職員数	3	2	△1
	平均年齢	49.7	47.5	△2.2

## Ⅱ 令和4年度の財務情報

### 1 財務諸表の要約

#### (1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	29,339	固定負債	14,139
有形固定資産	19,864	資産見返負債	1,627
無形固定資産	237	長期借入金	6,020
投資その他資産	9,237	移行前地方債償還債務	56
流動資産	18,713	長期寄付金債務	16
現金及び預金	12,546	引当金	6,420
有価証券	2,000	流動負債	4,176
未収入金	4,002	一年内返済予定長期借入金	1,256
たな卸資産	144	一年内返済予定移行前地方債償還債務	32
その他	20	未払金及び未払費用	2,166
		預り金	103
		引当金	620
		負債合計	18,315
		純資産の部	金額
		資本金	19,624
		資本剰余金	4,585
		利益剰余金	5,526
		純資産合計	29,736
資産合計	48,051	負債純資産合計	48,051

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

#### (2) 損益計算書

(百万円)

科目	金額
営業収益	24,384
営業費用	23,000
営業外収益	1,421
営業外費用	1,186
経常利益	1,620
臨時利益	10
臨時損失	29
当期純利益	1,602
目的積立金取崩額	354
当期総利益	1,956

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## (3) 純資産変動計算書

(百万円)

	I 資本金	II 資本剰余金	III 利益剰余金	IV 評価・ 換算差額等	純資産合計
当期首残高	19,624	4,143	4,386	0	28,153
I 資本金の当期変動額	0	0	0	0	0
II 資本剰余金の当期変動額	0	442	0	0	442
III 利益剰余金の当期変動額	0	0	1,140	0	1,140
IV 評価・換算差額等の当期 変動額	0	0	0	0	0
当期変動額合計	0	442	1,140	0	0
当期末残高	19,624	4,585	5,526	0	29,736

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	2,263
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	51
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,282
IV 資金増加額	1,033
V 資金期首残高	6,313
VI 資金期末残高	7,346

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## (5) 行政コスト計算書

(百万円)

科 目	金 額
I 損益計算書上の費用	24,214
医業費用	22,840
一般管理費	159
営業外費用	1,186
臨時損失	29
II その他行政コスト	19
III 行政コスト	24,233

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

## 2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析

(百万円)

区 分	令和3年度	令和4年度	増 減
当期総利益	1,302	1,956	654
資 産	47,521	48,051	530
負 債	19,368	18,315	△ 1,053



業務活動によるキャッシュ・フロー	3,032	2,263	△ 769
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,230	51	3,281
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 972	△ 1,282	△ 310

(当期総利益)

診療報酬改定に伴い急性期充実体制加算等の新規施設基準を取得したこと等により、総収益 258 億 15 百万円に対し総費用 242 億 14 百万円で当期純利益は 16 億 2 百万円となった。前中期目標期間繰越積立金から 3 億 54 百万円取崩し当期総利益は 19 億 56 百万円となり、前年比で 6 億 54 百万円増加した。

(資産)

令和 4 年度末時点の資産合計は、前年比で 5 億 30 百万円増加した。これは、本業の医業収益の増収に伴い、定期預金を除く現預金が 10 億 33 百万円増、未収入金が 3 億 45 百万円増となったことが主な要因である。

(負債)

令和 4 年度末時点の負債合計は、前年比で 10 億 53 百万円減少した。これは、固定負債の長期借入金 が 6 億 23 百万円減、流動負債の移行前地方債償還債務が 6 億 83 百万円減となったことが主な要因である。

(純資産)

令和 4 年度末時点の純資産合計は、前年比で 15 億 82 百万円増加した。これは、資本剰余金が 4 億 42 百万円増、利益剰余金が 11 億 40 百万円増となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 4 年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 7 億 69 百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して事業収入が 4 億 43 百万円増加したものの、補助金等収入が 4 億 61 百万円減、人件費の支出が 5 億 86 百万円増、その他の事業支出が 2 億 64 百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

令和 4 年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 32 億 81 百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して有価証券の取得による支出が 30 億 52 百万円減となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

令和 4 年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で 3 億 10 百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して長期借入金による収入が 2 億 52 百万円減、償還による支出が 58 百万円増となったことが主な要因である。

### 3 重要な施設等の整備等の状況

- ・ III-第 7-1 (36 ページ) 参照

### 4 予算及び決算の概要

- ・ III-第 3 (32 ページ) 参照

### 5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・ III-第 2-4 (2) (31 ページ) 参照

### Ⅲ 令和4年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取り組みを行った。

#### 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

##### 1 医療機能の分化・連携の推進

地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間の連携強化、訪問看護ステーションの在り方の検討等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】日本海ヘルスケアネット内の人事交流（令和4年度）

出向元	出向先	職種	人数	備考
健友会	日本海総合病院	医師	3名	平日診療
病院機構	健友会		3名	水土日の宿日直
医師会	日本海酒田リハ		2名	宿日直
病院機構	健友会	看護師	3名	透析室
病院機構	宏友会		3名	診療所、老健
病院機構	健友会	診療放射線技師	1名	休職者の応援

【実績】日本海ヘルスケアネット看護管理者ネットワーク会議（令和4年度）

活動テーマ	活動内容
「この地域を感染から守る」  目標：新型コロナウイルス感染症発生時に適切な初期対応ができクラスター発生を防ぐ	日本海総合病院感染管理認定看護師による感染症対策マニュアルとゾーニングへのアドバイス  各施設の対応やマニュアル改定に活用できるよう、感染防止対策に関する最新情報（新型コロナウイルス感染症、VRE）を毎月の会議で発信
「北庄内地域の食支援の質の向上」  目標：誤嚥性肺炎の知識・技術を修得し実践することで誤嚥性肺炎が減少する	誤嚥性肺炎予防のための知識・技術を習得するべく、専門性の高い職種が講師を担い研修会を開催 令和4年6月21日： 『食事のポジショニングについて』 日本海酒田リハビリテーション病院 言語聴覚士 令和4年10月25日： 『口腔ケアに関する継続看護の実践』 日本海総合病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 令和4年12月14日：『嚥下食のいろは』 日本海総合病院 管理栄養士

## 2 持続的・安定的な医療の提供及び医療水準の向上

### (1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

① 日本海総合病院は、庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、ハイブリッド手術室での手術件数が190件、ロボット支援手術件数が130件、放射線治療件数が6,582件と高度専門医療の充実を図るとともに、併せてDPC特定病院群の適用の維持による医療の質の向上を図り、急性期医療及び高度専門医療の適切な提供に取り組んだ。

入退院支援センターの活用や、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の活用による診療情報の共有化などにより、地域の他の医療機関や介護施設と連携し、入院から退院後の在宅や介護施設まで切れ目のない医療を提供した。

#### 【日本海総合病院の機能】

項目	概要								
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">626床</td> </tr> <tr> <td>（うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">24床）</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4床</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">630床</td> </tr> </table>	一般病床	626床	（うち、救命救急センター	24床）	感染症病床	4床	合 計	630床
一般病床	626床								
（うち、救命救急センター	24床）								
感染症病床	4床								
合 計	630床								
標榜科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科								
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急センター（ICU、HCU）</li> <li>・PETセンター</li> <li>・外来化学療法室</li> <li>・LDR室（陣痛・分娩・回復室）</li> <li>・未熟児室</li> <li>・認知症疾患医療センター</li> <li>・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室）</li> <li>・人工透析室</li> <li>・ハイブリッド手術室</li> <li>・地域医療支援病院</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院</li> <li>・災害拠点病院</li> <li>・へき地医療拠点病院</li> <li>・臨床研修病院</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>								

目標である病床稼働率については、目標値を上回ることができた。また、新型コロナウイルス感染症患者を考慮しない場合の病床稼働率でも81.1%と目標値を上回っている。

#### 【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
病床稼働率	76%以上	76.8%

- ② 日本海酒田リハビリテーション病院は、回復期医療と慢性期医療を担い、回復期医療では、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供し、慢性期医療では、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受入れを行った。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】

項目	概要						
許可病床数	<table border="1"> <tr> <td>医療療養型療養病床</td> <td>35床</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病床</td> <td>79床</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>114床</td> </tr> </table>	医療療養型療養病床	35床	回復期リハビリテーション病床	79床	合計	114床
医療療養型療養病床	35床						
回復期リハビリテーション病床	79床						
合計	114床						
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科						
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期リハビリテーション</li> <li>・在宅重症難病患者一時入院機能</li> <li>・機能訓練室</li> <li>・デイケア室</li> <li>・臨床研修病院</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>						

目標である回復期リハビリテーション実績指数について、目標値を大幅に上回ることができた。

【目標】日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
回復期リハビリテーション実績指数	40点以上	46.4点

- ③ 日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として一次医療の提供及び地域住民への訪問看護等を提供した。また、地域の医療需要を考慮した体制でへき地医療を提供した。

日本海八幡クリニックでは、平日延長診療、土曜診療及び訪問診療の実施並びに訪問看護ステーションの運営を行った。また、松山診療所では、4月～9月は火・水・木曜日の週3日間、10月～3月は月～木曜日の週4日間診療を行った。

飛島診療所では、日本海総合病院の医師による出張診療や遠隔診療を行うことで、必要な医療が確保されるよう努めた。

【日本海八幡クリニック】

項目	概要
標榜科（4診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション</li> <li>・訪問診療、訪問看護(介護保険事業を含む)</li> </ul>

【実績】日本海八幡クリニック

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	15,876名	16,355名	16,315名
1日平均外来患者数	54.2名	55.6名	56.1名

【実績】訪問看護ステーションやわた

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延利用者数	3,525名	3,193名	3,501名
1日平均利用者数	11.4名	9.4名	10.1名

【升田診療所】

項目	概要
標榜科	内科

【青沢診療所】

項目	概要
標榜科	内科

【実績】升田診療所

区分	令和2年度	令和3年度	令和3年度
延外来患者数	—	—	—
1日平均外来患者数	—	—	—

※令和2～4年度受診希望者なし

【実績】青沢診療所

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	51名	62名	69名
1日平均外来患者数	4.3名	5.2名	5.8名

【松山診療所】

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科
診療機能等	訪問診療、飛島診療所の遠隔診療

【地見興屋診療所】

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

【飛島診療所】

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

【実績】松山診療所

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	3,504名	3,456名	2,929名
1日平均外来患者数	17.1名	14.6名	18.5名

【実績】地見興屋診療所

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	153名	111名	88名
1日平均外来患者数	4.0名	2.9名	4.4名

【実績】飛島診療所

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延外来患者数	518名	458名	422名
1日平均外来患者数	3.4名	2.6名	2.7名

## ア 診療体制の充実

### (ア) 救急医療(日本海総合病院)

庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、地域に信頼される医療の提供に努めた。また、救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、高度な処置が必要となる重篤な患者に対する三次救急診療を日本海総合病院の医師が担い、夜間救急外来での一次救急診療については一般社団法人酒田地区医師会十全堂所属の医師が担当し、夜間救急の診療体制を維持した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、上半期に受診患者数が増加したものの、救急医療の提供体制を維持し、救命救急センターの責務を果たせた。

【実績】救命救急センター延べ患者数(日本海総合病院)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
17,141名	19,861名	19,662名

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数(日本海総合病院)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小児科	23名	—	—
その他	198名	131名	98名

※令和2年10月から小児夜間診休止

【実績】救急車の搬送数(日本海総合病院)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
酒田地区 医療機関への搬送数 計	4,825名	5,106名	5,418名
うち日本海総合病院への搬送数	2,852名	3,133名	3,645名
鶴岡地区 医療機関への搬送数 計	4,907名	5,161名	5,334名
うち日本海総合病院への搬送数	361名	337名	314名
庄内地域での日本海総合病院の割合	33.0%	33.8%	36.8%
救急搬送受入要請の応需率 ※	100%	100%	100%

※令和2年度から算出開始

(イ)がん医療(日本海総合病院)

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療を継続して行った。患者の状態を考慮し、より効果が高い治療の提供に努め、特に放射線療法においては令和4年4月から強度変調放射線治療(IMRT)の算定を開始したことにより、IMRTや定位放射線治療(SRT)といった高度な治療の件数が増加した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法件数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
手術	1,149件	1,167件	1,156件
放射線療法 (実件数)	5,978件 (241件)	6,577件 (240件)	6,582件 (184件)
うちIMRT (実件数)	— —	— —	2,639件 (73件)
うちSRT (実件数)	40件 (10件)	30件 (9件)	27件 (9件)
外来化学療法	7,114件	7,730件	7,503件

がん診療連携協議会を定期的に開催するとともに、山形大学医学部附属病院から腫瘍内科の医師の招集と多職種による検討を行い、より適切で効果的ながん医療の提供に努めた。

【実績】がん診療連携協議会開催回数及び症例数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
回数	26回	26回	37回
症例数	69症例	163症例	141症例

- ② 適切な緩和ケアの早期提供のため、緩和ケアスクリーニングを行い、緩和ケア医療の充実に努めた。

【実績】緩和ケアスクリーニング実施件数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	3,934件	4,300件	4,368件
外来	465件	671件	658件

医師及び多職種に対する緩和ケア研修会を開催し、緩和ケア医療提供の体制強化に努めた。

【実績】がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会(日本海総合病院)

実施日	受講済み医師数
令和4年11月12日	104名

- ③ がん対策の進展に貢献するよう、中級認定者を専従として1名配置し、院内がん登録及び全国がん登録を実施した。

【実績】がん登録件数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象年	2019年症例	2020年症例	2021年症例
院内がん登録	1,874件	1,881件	1,961件
全国がん登録	1,885件	1,891件	1,969件
庄内地域での日本海総合病院の割合 ※	69.0%	72.2%	67.0%

※国立がん研究センター院内がん登録全国集計から算出

(ウ)脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患(日本海総合病院)

- ① 急性期医療において内科的・外科的治療を速やかに行い、機能回復のためのリハビリテーションの早期開始に努めた。また、継続して休日のリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	733名	43,815回	763名	45,582回	851名	48,047回
心大血管	689名	14,400回	639名	10,849回	638名	9,731回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	630名	5,650回	695名	5,660回	612名	2,706回
心大血管	500名	1,578回	440名	1,213回	395名	757回

- ② 脳梗塞の血栓回収療法等、脳卒中に対する適切な急性期医療の提供体制を整え、医師・看護師・コメディカルスタッフと連携し、適切かつ速やかな治療を提供した。

【実績】血栓回収療法、t-P A実施件数(日本海総合病院)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
血栓回収療法	2件	5件	4件
t-P A	16件	26件	18件

- ③ 酒田及び鶴岡地区管内全ての救急隊に配備されている12誘導心電図伝送システムを活用し、重篤患者の治療を行った。

【実績】12誘導心電図伝送件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
271件	348件	357件

※酒田地区：平成31年2月から運用開始

※鶴岡地区：令和2年12月から運用開始



急性心筋梗塞の救急搬送患者に対して、速やかに集中治療室に転送し、迅速な救命治療を実施した。また、病院に到着する前に院内放送で心筋梗塞チームを参集し、救急搬送直後から治療にとりかかるシステムを構築し、運用している。

【実績】経皮的冠動脈形成術及び経皮的冠動脈ステント留置術件数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
急性心筋梗塞に対するもの	43件	42件	44件

## (エ) 糖尿病(日本海総合病院)

医師・看護師・管理栄養士等が協働し、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を継続して行った。

【実績】糖尿病教室

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
開催回数	10回	10回	13回
参加人数	23名	28名	34名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実患者数	6名	5名	3名
指導回数	29回	25回	10回

【実績】教育入院患者数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
119名	239名	217名

【実績】個別栄養指導件数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	335件	482件	443件
外来	223件	220件	219件
合計	558件	702件	662件

目標である糖尿病教室について、新型コロナウイルス感染症による影響から目標値を下回ったが、糖尿病教室の参加人数は増加した。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
糖尿病教室	15回以上	13回

## (オ) 精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図りながら、身体合併症患者への診療など総合病院として担うべき医療を提供した。

【実績】他の精神科病院から日本海総合病院に紹介等され入院した患者数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
45件	51件	64件

### (カ)小児・周産期医療(日本海総合病院)

- ① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応など、周産期に係る高度な産科医療を提供した。また、新型コロナウイルス感染症の妊婦の分娩を実施した。(令和3年度:2件、令和4年度:15件)

【実績】母体・新生児救急受入れ患者数等状況

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
母体	10名	17名	10名
新生児	6名	10名	2名
緊急帝王切開	38件	33件	56件

- ② 産婦人科専門医4名及び小児科専門医4名の体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供した。

三次医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院と連携を図り、母体・新生児の救急搬送を適切に行った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
母体	12名	7名	12名
新生児	2名	0名	2名

### (キ)回復期リハビリテーション(日本海酒田リハビリテーション病院)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADL(日常生活動作)を改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるよう、リハビリテーションを集中的に提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	実患者数	回数	実患者数	回数	実患者数	回数
脳血管疾患	236名	87,764回	237名	86,837回	245名	83,159回
運動器	200名	54,944回	221名	57,168回	206名	57,561回

### (ク)在宅医療支援及び療養支援

- ① 退院支援においては、入退院支援センター看護師、医療・福祉センターの社会福祉士が共同し、切れ目なくサービスが受けられるよう、地域の介護・福祉・医療機関等との連携を行った。退院困難の事例においては、多職種によるカンファレンスを行い、患者が住み慣れた地域での暮らし、患者家族が望む退院先を自己決定できるように支援を行った。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、関係各所と連携を密に図ることで、患者や家族が希望する退院先への調整を行った。

入退院支援センターにおいては、入院前より退院困難な要因の抽出を行い、経済的な問題等があれば、早期に社会福祉士への情報提供を行った。在宅療養への不安がある患者については、入院前から退院支援看護師が介護保険の説明等を行い、不安軽減に努めた。

退院後においても、在宅療養で不安や問題が生じた際には、患者、家族からの相談に応じ、在宅医や訪問看護、ケアマネジャー等とも情報共有を行い、継続した支援を実施した。

【実績】入院前スクリーニング実施件数（日本海総合病院）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
6,317名	5,752名	5,525名

※入退院支援センター：令和2年2月17日から運用開始

【実績】退院調整件数（日本海総合病院）

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
他病院	925件	927件	994件
在宅	12,426件	12,862件	12,351件
介護老人保健施設	95件	134件	142件
介護老人福祉施設	131件	106件	100件
ショートステイ	91件	120件	135件
有料老人ホーム	216件	261件	260件
その他	110件	68件	50件
合計	13,994件	14,478件	14,032件

② 在宅患者が安心して地域で療養できるよう、通所リハビリテーションを実施した。

【実績】通所及び訪問リハビリテーション延べ利用者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
通所リハビリ	3,841名	3,095名	1,141名
訪問リハビリ	229名	179名	0名

※訪問リハビリテーション：令和4年1月から休止

※通所リハビリテーション：令和4年10月から休止

在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となった患者の受け入れを適切に行い、レスパイト入院等が増加した。

【実績】診療所からの入院受入患者数（日本海酒田リハビリテーション病院）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
6名	28名	32名

(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）

診療所が設置されている各地域において、へき地医療等、地域医療の維持、確保を図り、一次医療の提供を行った。また、各診療所においては、総合診療を行うプライマリ・ケアを提供し、必要に応じて高度及び専門医療機関に紹介する等、連携した医療の提供を行った。

【実績】日本海総合病院への紹介件数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
日本海八幡クリニック	321 件	337 件	347 件
松山診療所	86 件	80 件	52 件
飛島診療所	15 件	15 件	7 件

【実績】日本海総合病院以外への紹介件数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
日本海八幡クリニック	123 件	132 件	87 件
松山診療所	28 件	22 件	12 件
飛島診療所	—	—	5 件

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備(日本海総合病院)

高度専門医療等の医療機器の更新にあたっては、整備計画を策定し、それに従い整備を行った。財源としては、起債及び剰余金を活用した。

高度医療機器については、フルデジタルガンマカメラ等、医療機器整備計画及び利用見込み並びに収支予測を行い、計画的に更新・整備を行った。

ウ 災害時や健康危機における医療協力(日本海総合病院)

- ① 新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、研修会・訓練を開催し、トリアージ研修会や机上訓練については、3年ぶりに開催した。実働訓練は、開催直前の新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となったが、代替の研修会を開催し、災害拠点病院として機能するための準備を行った。

【実績】災害医療研修及び訓練

実施日	内 容	参加人数
令和4年6月17日～ 令和4年9月30日	(災害医療研修会／動画配信) 災害医療の基礎とトリアージ	657 名
令和4年7月8日	(災害医療研修会／トリアージ研修会) 模擬患者を使った”トリアージ研修会”	137 名
令和4年9月11日	(災害対応訓練／机上訓練) 机上での災害対応訓練の流れ	142 名
令和4年11月～ 令和5年2月	(災害医療研修会)災害拠点病院指定要件について当院の現状確認／資器材・備品等の見直し	—

災害時に必要な医療物資等について、医療物資等及び食料の備蓄を実施するとともに、燃料等の優先納入契約に関する協定を継続した。

【実績】医療物資等及び食料の備蓄（日本海総合病院）

年度	内容
令和3年度	白米 40 ケース・五目御飯 20 ケース・防災食 1,000 パック・野菜カレー 1,020 パック 他
令和4年度	米（白米・カメ・山菜）各 20 ケース・牛丼の具 20 ケース・汁 5 ケース・水 168 ケース 他

【実績】燃料等の優先納入契約に関する協定（日本海総合病院）

締結日	内容
令和4年4月1日	災害時におけるA重油の優先供給に関する協定
令和4年4月1日	災害時におけるガソリン等の優先供給に関する協定

- ② 大規模災害発生時には、県の要請等によるDMAT（災害派遣医療チーム）等の現地派遣要請への備え、大規模地震時医療活動訓練や各種研修会に参加し、職員の技能維持等に取り組んだ。

SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運営協力として、山形県所有のSCU医療資材について、日本海総合病院で保管・点検等を実施し、緊急時に備えた。

- ③ 日本海総合病院、鶴岡市立荘内病院、庄内保健所の3機関が主催となり、新興感染症等の発生を想定した合同訓練をオンライン形式で実施した。訓練内容は、新型コロナウイルス感染症対応に係る個人防護具の着脱方法の動画視聴と実際の着脱訓練を実施した。本訓練に参加した医療機関等は73機関、約200名となり、地域の感染対策の向上を図った。

山形県等の要請により、感染管理に精通した医師や看護師等で構成する感染症専門班等をクラスター発生施設に派遣し、感染管理助言等の支援を行った。

【実績】クラスター発生施設への感染症専門班等の派遣（日本海総合病院）

依頼元	派遣先	期間	職種	延活動日数	活動内容
山形県	酒田市 特別養護老人 ホーム (3施設)	令和4年4・ 5・10月	感染管理 認定看護師	6日	・ゾーニングの状 況確認等 ・ゾーニング及び PPE着脱等の感 染防止対策指導等
山形県	酒田市 老人保健施設 (1施設)	令和4年4月	感染管理 認定看護師	2日	
山形県	酒田市、 三川町他 (有料老人ホ ーム等)	令和4年5・ 6・8・10月	感染管理 認定看護師	13日	
山形県	酒田市 医療法人	令和4年4月	感染管理 認定看護師	2日	

目標である災害等に係る訓練及び研修について、目標値どおり実施することができた。

**【目標】日本海総合病院**

目標とする指標	目標値	令和4年度
災害等に係る訓練及び研修	4回以上	4回

**エ 政策医療の実施(日本海総合病院)**

- ① 第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症接触者の検体採取及び陽性者の診察を積極的に受入れた。また、重点医療機関として専用病床を確保し、新型コロナウイルス感染症患者の診療及び入院受け入れを行った。

**【実績】新型コロナウイルス感染症患者の受入等**

区 分	人数等
二類感染症患者入院診療加算延べ算定患者数 (新型コロナウイルス感染症患者除く)	59名
新型コロナウイルス感染症に係る検査延べ人数	21,630件
新型コロナウイルス感染症による延べ入院患者数	3,386名
(うち透析治療患者数)	28名
自宅療養に係る開業医への紹介件数(電話診療)	3,094名

- ② 認知症疾患医療センターとして、認知症患者の状況等に応じた専門医療相談、鑑別診断等を実施した。

**【実績】認知症疾患医療センター相談件数**

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規相談件数	315件	442件	435件
継続相談件数	218件	207件	250件

- ③ 精神疾患及び身体合併症を伴う精神疾患患者に対する精神医療提供体制の充実のための精神病床設置について、新型コロナウイルス感染症の動向等を鑑み、検討を保留することとした。

- ④ 脳死下臓器移植について、提供施設として院内コーディネーターを中心としたシミュレーション(机上)を実施した。また、年2回開催された県主催の院内コーディネーター会議にもWebで参加した。

**【実績】臓器提供シミュレーション**

実施日	内 容	参加人数
令和4年12月26日	脳死下臓器移植提供シナリオ読み合わせ	19名

目標である脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修について、目標値どおり実施することができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
脳死判定シミュレーション等臓器提供に係る研修	1回以上	1回

(2) 医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

- ① 高度専門医療等の安定的な提供を図るため、医師・薬剤師・看護師のほか医療職8職種の募集、職員採用試験を計画的に実施し、医療従事者の確保に努めた。

採用実績は、看護師32名、医療技術者については計22名の職員を確保した。(医師、事務職除く)

【実績】採用者人数(令和4年度採用試験)

職 種	令和4年12月採用数
言語聴覚士	1名
管理栄養士	1名

職 種	令和5年4月採用数
初期臨床研修医	12名
薬剤師	1名
看護師	32名
診療放射線技師	1名
臨床検査技師	4名
理学療法士	4名
作業療法士	3名
言語聴覚士	1名
臨床工学技士	2名
管理栄養士	2名
社会福祉士	2名
計	64名

- ② 医師の働き方改革の動向を踏まえ、特定行為管理委員会において、看護師の特定行為研修修了者を積極的に活用するための環境を整備し、医師の負担軽減を図った。

【実績】特定行為実施件数

特定行為	件数
侵襲的陽圧換気の設定の変更	123件
人工呼吸器からの離脱	6件
胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	7件
持続点滴中のテコミンの投与量の調節	1件
持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	2件
脱水症状に対する輸液による補正	4件
橈骨動脈ラインの確保	85件
合計	228件

- ③ 新専門医制度の下で、基幹施設として研修実施可能な4診療科（内科、外科、産婦人科、麻酔科）及び連携施設（内科、外科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、放射線科、病理診断科、救急科）として、多くの専攻医を受け入れ、医師確保に努めた。

【実績】臨床研修医及び専攻医（レジデント）受入れ人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
68名	68名	67名

- ④ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、外部講師派遣による役職別研修や各部門独自で専門能力を高める研修を実施した。

- ⑤ 看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者4名を含む計14名に修学資金の貸与を実施し、貸与終了者5名のうち4名が当機構職員として入職した。

【実績】看護師等修学資金の貸与

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸与	貸与者	14名	15名	14名
	うち新規貸与決定者	6名	5名	4名
終了	貸与終了者 (A)	8名	4名	5名
	うち法人就職者 (B)	8名	2名	4名
	入職率 (B/A)	100%	50%	80%

- ⑥ 看護師の資質向上のため、認定看護師の新規取得のほか、特定行為、専門看護師研修者を育成した。

自施設で実施している特定行為研修（術中麻酔管理領域パッケージ）については3名受講修了した。

【実績】認定看護師等研修派遣

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
認定看護師	1名	2名	2名
専門看護師	0名	1名	1名
特定行為研修	3名	2名	3名

目標である各種看護師資格の取得者数及び特定行為研修修了者数について、目標値を大幅に上回ることができた。



【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和4年度実績	実績合計(期間中)
特定行為研修修了者、専門看護師資格の新規取得者数又は認定看護師の新規取得者数	期間中5名以上	6名	13名
特定行為研修修了者	期間中4名以上	3名	8名

イ 事務職員の確保と専門性の向上

病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、2名の事務職員を採用し、各課に配置することで、他業務、他職種との連携体制を構築した。

新規採用職員研修を実施し、病院の運営方針等を学ぶことを通して専門性と資質の向上に努めた。事務職員の専門性と資質の向上のため、事務職員資格取得支援制度を活用し、令和4年度は、診療情報管理士に2名合格し、通信教育（診療情報管理士）を1名受講開始した。

ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 職員が健康を維持し、また、業務に専念できるよう定期健康診断を実施し、長期休業者（育休等）を除いた職員の受診率は100%であった。

ストレスチェックでは、より多くの職員が受検できるよう、受検方法を「紙一択」から「紙・ウェブ選択可」とし、89.5%の職員が実施した。ハラスメント研修を新規採用者にも実施し、対策を強化した。

【実績】ストレスチェックの受診状況(日本海総合病院)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実施率	87.80%	91.10%	89.50%

- ② 介護や子育て等、家庭環境に配慮した支援及び医師のキャリアパスに配慮した医師短時間正職員制度や育児部分休業等の制度の活用を推進した。さらに院内保育所の24時間対応や病児・病後児保育の継続、男性の育児休暇取得の推進など、働きやすい環境づくりを進め、職員のワーク・ライフ・バランスの向上に努めた。

女性活躍推進が優良である等の一定の要件を満たし、山形労働局から、女性活躍推進法に基づく認定（えるぼし認定）を受けた。

【実績】医師短時間職員制度等の利用状況

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医師短時間	2名	3名	3名
育児部分休業	0名	0名	1名
育児短時間勤務	0名	1名	1名
育児時間	5名	4名	18名
ベビーシッター等助成金	1名	0名	0名
ハウスクリーニング等助成金	3名	3名	2名
屋外清掃作業助成金	1名	1名	0名

- ③ 病棟、外来及び文書作成に医師事務作業補助者を下記のとおり配置し、医師をはじめとする各職種の労働時間短縮・負担軽減を図り、効率的な業務遂行に努めた。

【実績】医事クラークの配置数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
68名	70名	76名

### (3) 医療サービスの効果的な提供

#### ア 地域連携の推進

- ① 地域医療構想の実現及び地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」への参画により、引き続き、人工透析の機能分担、地域フォーミュラリ、人事交流、急性期機能の集約化、看護管理者間の連携強化、訪問看護ステーションの在り方の検討等を行い、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携を強化し、切れ目のないサービスの提供に努めた。

地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」をはじめとしたICTの活用などにより、山形県全域および秋田県との地域及び医療圏を超えた広域的な医療連携、「あきたハートフルネット」との診療情報の相互連携を継続的に行った。

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
5件	41件	48件

※令和2年度から運用開始

【実績】ちようかいネット・あきたハートフルネット相互閲覧件数（コンテンツ別）

コンテンツ	令和2～4年度 合計
処方（指示）	10件
注射（指示）	1件
検査	5件
画像（指示）	5件
レポート	1件
画像一覧（画像の閲覧）	64件
サマリービュー	1件
ノート（記録）	7件

- ② 地域の医療サービスを効果的に提供するため、連携協力医登録制度を活用し、医療福祉センターの逆紹介サポート窓口において、社会福祉士が患者と面談し逆紹介について相談できる体制を構築するなど、かかりつけ医への紹介等連携を図った。

目標である紹介率及び逆紹介率について、目標値を大幅に上回ることができた。

【目標】日本海総合病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
紹介率	55%以上	67.8%
逆紹介率	75%以上	97.0%

## イ 診療情報の共有化、地域連携クリティカルパスの活用

- ① 地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」の拡大や活用促進に主体的に取り組み、他の医療機関や薬局、介護・福祉施設等との診療情報の共有化の推進を図ったことから、前年度と比べ登録患者が5,519名増加した。

【実績】登録患者数等

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録患者数	49,337名	55,131名	60,650名
開示施設数	8施設	8施設	8施設
閲覧施設数	234施設	237施設	249施設

- ② 効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリティカルパスを継続して活用した。

地域連携クリティカルパスの運用により、他の医療・介護福祉機関と連携し支援を行った。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大腸がん	22件	24件	11件
乳がん	11件	7件	8件
胃がん	18件	15件	9件
大腿骨近位部骨折	100件	102件	88件
脳卒中	178件	183件	165件
心臓リハビリテーション	99件	98件	86件
前立腺がん	4件	5件	0件

## (4) 教育研修事業の充実

### ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

- ① 臨床研修医及びレジデントの受け入れ並びに山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの地域医療実習生を継続して受け入れ、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
臨床研修医	28名	26名	28名
専攻医(レジデント)	40名	42名	39名
スチューデントドクター(山形大学)	45名	68名	66名
高次臨床修練生(東北大学)	3名	1名	2名

酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として看護師を育成するなど、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海総合病院）

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実習学生数	78名	73名	77名

【実績】酒田看護専門学校実習実績（日本海酒田リハビリテーション病院）

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実習学生数	26名	—	—

- ② 救急救命士の技能向上等が図れるよう、救急救命士養成課程の就業前研修、再教育実習、山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計36名の実習生の受入れを行った

【実績】実習生受入人数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
就業前研修	1名	3名	2名
再教育実習	33名	31名	30名
病院実習	10名	7名	4名
計	44名	41名	36名

## イ 住民意識の啓発活動（日本海総合病院）

住民の健康意識の向上のため、住民を対象としたセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」で開催された健康講座に職員を派遣し、関係機関と連携し、啓発活動に努めた。また、病院広報誌「あきほ」の活用等を通して、医療や健康に関する情報を発信し、啓発活動を行った。

【実績】健康講座（開催場所：酒田市総合文化センター）

実施日	内 容	参加人数
令和4年5月25日	『変形性骨関節症の治療』 診療部長(兼)整形外科部長 菅原 裕史 氏	25名
令和4年6月15日	『心臓とくすり』 主任薬剤師 佐藤 遼 氏	19名
令和4年7月27日	『誤嚥性肺炎予防』 主任言語聴覚士 八鍬 恵理 氏	19名

## 3 患者・住民の満足度の向上

- ① 来院者の意見等を取り入れ、院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間の短縮等改善に努めた。また、入退院支援センターの活用により入院から退院まで包括的にサポートできる体制を整備した。

外来看護師や事務などの関係者が、受付から会計までの在院時間の短縮等を目的としたミーティングを定期的で開催し、業務フローの見直しや人員配置の変更など改善に努めた。

入退院支援センターでは、退院時に医療費を支払いたいという患者や患者家族等の利便性を向上させるため退院時会計を実施した。

【実績】入退院支援加算（入院時支援加算有り）算定件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,317件	2,457件	2,342件

※入退院支援センター：令和2年2月17日から運用開始

- ② ウェブサイト及び広報誌等を通じ、それぞれの病院や診療所の役割等に関する情報を分かりやすく提供するため、ホームページでの病院情報の発信や病院広報誌「あきほ」の発行により、地域住民に分かりやすく、かつ幅広い情報発信を行った。

目標である病院広報誌発行回数について、目標値どおり発行することができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
病院広報誌発行回数	4回	4回

#### 4 法令等の遵守と情報公開の推進

- ① 職員研修において、法令及び倫理綱領並びに業務執行等におけるコンプライアンスの内容を周知するとともに、法令遵守、職務遂行を就業規則に規定し院内イントラネットでも常時周知するなど、職員に対して周知徹底に取り組んだ。
- ② インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び山形県個人情報保護条例に基づき、県の機関に準じて適切に行なった。

【実績】診療情報提供申出件数（日本海総合病院）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
43件	59件	43件

文書管理についても、山形県公文書等管理条例に基づき、県の機関に準じて保存・廃棄等適切に対応した。

- ③ 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、全職員に向けたe-ラーニング研修を実施し、地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」に新規参加する介護事業者及び新たに利用開始するユーザーに対して、対面でのセキュリティ研修会を実施した。

【実績】職員セキュリティ研修

対象者	参加状況
全職員対象e-ラーニング	562名

【実績】ちようかいネットセキュリティ研修会

対象者	参加状況
新規参加介護事業者等	12名

## 5 医療安全対策の充実・強化

住民に信頼される安全で安心な医療を提供するため、医療安全対策及び院内感染対策に関する研修を各2回行った。診療プロセス全体におけるリスクマネジメントの強化を図った。

開催方法については、開催当日の集合研修の他に、未受講者に対して開催当日の録画映像の上映やeラーニングによる配信など、より多くの職員が受講できるよう取り組んだ。

### 【実績】医療安全研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和4年9月8日	第1回 医療安全全体研修会 『日本赤十字社医療センターにおけるRRSの取組と現状』 日本赤十字社医療センター 救命救急センター長 林 宗博 氏	1,005名
令和4年12月16日	第2回 医療安全全体研修会 『医療メディエーション室の取り組み』4年間の実績比較 医療メディエーション主幹 佐藤 由枝 氏	1,046名

### 【実績】院内感染対策研修会（日本海総合病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和4年12月20日	第1回 院内感染対策研修会 『新型コロナウイルス感染症について～今知っておきたいこと～』 呼吸器内科 診療部長(兼)内科部長 町屋 純一 氏	1,134名
令和5年1月27日	第2回 院内感染対策研修会 『VREアウトブレイク-私たちは「手指衛生と環境整備」でVREアウトブレイクを乗り越えた-』 青森県立中央病院 感染管理室 感染管理認定看護師 赤平 恵美 氏	1,074名

### 【実績】医療安全研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和4年10月14日 令和4年10月21日	第1回 医療安全研修会・動画配信 患者誤認による重大事故対策を中心に	139名
令和5年3月8日 令和5年3月15日	第2回 医療安全研修会・動画配信 安全のための改善活動	101名

### 【実績】院内感染対策研修会（日本海酒田リハビリテーション病院）

開催日	研修内容等	参加人数
令和4年7月26日 令和4年7月29日 令和4年8月3日	第1回 院内感染対策研修会・動画配信 感染経路別予防 ～院内全体で取り組む感染対策の基礎～	105名
令和4年12月20日 令和4年12月23日 令和4年12月26日	第2回 院内感染対策研修会・動画配信 接触感染予防策 ～新型コロナウイルスの特性と効果的な感染対策、PPEの着脱方法～	108名

目標である医療安全対策及び院内感染対策に係る研修について、目標値どおり実施することができた。

**【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院**

目標とする指標	目標値	令和4年度実績	
医療安全対策及び院内感染対策に係る研修	4回以上	日本海総合病院	4回
		日本酒田リハビリ病院	4回

**第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 組織マネジメントの強化、災害発生時の業務継続性の確保**

① 運営委員会、診療部代表者会議、業務改善委員会、経営会議等を定期的に開催し、内部統制の推進を図った。

自律性のある効率的な業務運営を行うため、内部による医療費未収金集金業務及び委託契約、物件購入契約等に係る会計監査を実施した。

目標である内部監査について、目標値どおり実施することができた。

**【目標】法人全体**

目標とする指標	目標値	令和4年度
内部監査	2項目以上	2項目

② 災害発生時等において、非常時の業務マネジメント体制を整備しておくとともに、BCP（業務継続計画）に基づき業務の継続性を確保できるよう、災害対策マニュアル・BCPマニュアル等の見直しを行った。

**2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用**

医療需要の変化に迅速かつ的確に対応するため、定期的な人事異動により適材適所の配置に努めるとともに、診療体制の適正化を図った。

医師短時間正職員制度を利用することで、医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努め、多様な勤務形態の活用を図った。

感染対策部門、診療録管理部門等に専門性の高い職員を配置し、入退院支援センターでは多職種が協力し、効果的な業務運営を行った。

**3 業務の効率化、職員の意欲向上**

① 各種委員会等において、業務プロセスの見直しや課題等への対応を適切に行い、業務の効率化に努めた。

**【実績】業務改善委員会（日本海総合病院）**

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規提案	23件	33件	15件
終了	16件	27件	19件

各業務において連携、機能分化の推進に努め、手術室においては、特定看護師を配置、麻酔アシスタント制度により臨床工学技士2名を活用し、タスクシフトを推進した。

- ② 職員の能力や経験を適切に評価し、昇任に反映させ意欲向上を図るとともに、将来の病院経営を担う人材を育成するため、医療職 108 名、事務職 8 名を昇任させ、リーダーシップを発揮できる人材の育成を行った。

## 4 経営基盤の安定化

### (1) 収入の確保

- ① 診療報酬改定で新設された急性期充実体制加算を取得するため、院内体制を整備した。急性期充実体制加算を取得したことで、従来の総合入院体制加算に比べて大幅な増収につながった。

区 分	金 額
急性期充実体制加算取得による増収額	259,343,100 円

また、新たに強度変調放射線治療の施設基準等を取得し、増収を図った。

区 分	金 額
新規施設基準取得による増収額	155,632,250 円

日本海総合病院ではD P C係数等に対する分析及び評価を適切に行い、令和5年度もD P C特定病院群が適用となった。また、収益の確保を図るため、経営会議にて要件の確認及び報告、院内の関係部署との連携、データ解析や運用改善を行った。

目標であるD P C特定病院群の維持について、目標値どおり適用することができた。

#### 【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
D P C特定病院群適用	期間中継続	適用

- ② 入退院支援センターでの退院時会計を引き続き実施し、土曜日に退院する患者についても退院時会計を行い、未収金の発生防止に努めた。

未収金が発生した際には、督促・催告状の発行に加え分納納入や集金の対応、弁護士法人への委託によって、早期回収に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響下において、支払いに困難な事情がある患者に向き合い、長期的に支払いの契機を伺いながら回収に努めた。

### (2) 費用の抑制

医療を取り巻く環境の変化や患者動向に対応し、給与水準や職員配置の適正化、業務の委託等により人件費の適正化に努め、材料費についても、収益の状況を把握しながら費用削減に努めた。また、医薬品については、地域フォーミュラリの推進を図り、後発医薬品の使用促進に努めた。



【実績】費用に係る比率

区 分	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	42.8%	28.4%	16.6%
日本海酒田リハビリ病院	81.8%	1.9%	0.7%
日本海八幡クリニック等診療所	55.0%	9.2%	7.5%
病院機構全体	44.9%	26.8%	15.7%

目標である後発医薬品数量シェア率について、日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院とも目標値を上回ることができた。

【目標】日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院

目標とする指標	目標値	令和4年度実績	
後発医薬品数量シェア率	80%以上	日本海総合病院	90%
		日本海酒田リハビリ病院	95%

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金計画

効率的かつ効果的な経営を持続するため、運営委員会や経営会議等において、各職員へ経営状況の情報共有等を図った。

適切な資金計画に基づき、法人全体の資金収支の均衡や短期借入金の抑制を図った。

目標である経常収支比率及び営業収支比率の目標値を上回ることができた。

【目標】法人全体

目標とする指標	目標値	令和4年度実績
経常収支比率	100%以上	106.7%
営業収支比率	100%以上	106.0%

別表1 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	25,373	26,970	1,597
営業収益	23,230	23,810	580
医業収益	21,837	22,343	506
運営費負担金	1,393	1,468	75
営業外収益	393	1,422	1,029
運営費負担金等	58	55	△3
その他	335	1,366	1,031
臨時利益	11	20	9
資本収入	1,739	1,717	△22
運営費負担金等	1,076	1,076	0
長期借入金	660	633	△27
その他	3	8	5

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支出	25,638	25,446	△192
営業費用	22,451	22,416	△35
医業費用	22,261	22,243	△18
給与費	11,106	11,055	△51
材料費	7,164	7,227	63
経費	3,855	3,883	28
研究研修費	136	79	△57
一般管理費	190	173	△17
営業外費用	140	132	△8
臨時損失	0	1	1
資本支出	3,047	2,898	△149
建設改良費	1,123	975	△148
長期借入金返還金	1,914	1,914	0
奨学金貸付	9	8	△1
その他	1	0	△1

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	24,210	25,815	1,605
営業収益	23,802	24,384	582
医業収益	21,793	22,299	506
運営費負担金収益	1,394	1,468	74
資産見返運営費負担金戻入	615	617	2
営業外収益	397	1,421	1,024
運営費負担金収益	58	55	△3
その他医業外収益	339	1,366	1,027
臨時利益	11	10	△1
支出	24,184	24,214	30
営業費用	22,954	23,000	46
医業費用	22,779	22,840	61
一般管理費	175	159	△16
営業外費用	1,207	1,186	△21
臨時損失	23	29	6
純利益	26	1,602	1,576

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

別表3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	40,656	40,977	321
業務活動による収入	23,634	24,809	1,175
診療業務による収入	21,837	21,991	154
運営費負担金による収入	1,451	1,503	52
補助金等収入	171	1,169	998
その他の業務活動による収入	175	145	△30
投資活動による収入	8,879	9,223	344
有価証券の売却による収入	0	100	100
定期預金の払出による収入	7,800	8,000	200
運営費負担金による収入	1,076	1,076	0
奨学金の返還による収入	2	0	△2
その他の投資活動による収入	1	47	46
財務活動による収入	660	633	△27
長期借入による収入	660	633	△27
前年度からの繰越金	7,483	6,313	△1,170
資金支出	33,438	33,631	193
業務活動による支出	22,591	22,545	△46
人件費支出	11,106	11,190	84
材料費支出	7,164	7,088	△76
その他の業務活動による支出	4,321	4,267	△54
投資活動による支出	8,933	9,171	238
有形固定資産の取得による支出	1,123	1,049	△74
有価証券の取得による支出	0	99	99
定期預金の預入による支出	7,800	8,000	200
奨学金の貸付による支出	9	8	△1
その他の投資活動による支出	1	15	14
財務活動による支出	1,914	1,914	0
長期借入の返済による支出	1,199	1,199	0
移行前地方債償還債務等の償還による支出	715	714	△1
翌年度への繰越金	7,218	7,346	128

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

#### 第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

#### 第5 剰余金の使途

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し、将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

#### 第6 料金に関する事項

##### 1 使用料及び手数料

###### (1) 法令等に基づき算定する使用料及び手数料

料金の額は、計画に記載の基準等の規定により算定した額を徴収した。

###### (2) その他の使用料及び手数料

計画に記載の契約等による額とした。

##### 2 使用料及び手数料の減免

該当なし

#### 第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

##### 1 医療機器・施設整備に関する事項

① 医療機器については、費用対効果、地域の医療需要、他機関との機能分化、医療技術の進展等を総合的に判断し、手術用内視鏡システム、超音波画像診断装置の更新や、手術器具等の整備し、適切な医療の確保に努めた。

② 施設整備について、中長期計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を行った。

【実績】主な修繕工事

工事名	契約額 (千円)	概要
非常用発電機改修工事	61,600	耐用年数を超過した非常用発電機の各種部品交換及び点検を行う。
直流電源装置部品交換工事	19,800	耐用年数を超過した直流電源装置（整流器）1式の部品交換を行う。
空調機ユニット更新工事	10,010	耐用年数の超過と塩害により劣化している空調機1基を更新する。
エレベーター(1・2・3号機)更新工事	121,440	耐用年数を超過した機能維持に必要な部品の一部が製造終了となったエレベーター3基を更新する。

日本海八幡クリニック等診療所と飛島診療所において、電子カルテを導入し診療の効率化を図った。

- ③ 地域の医療ニーズに対応するため、新型コロナウイルス感染症における重点医療機関として感染症患者の積極的な受入れと院内感染防止を図り、新型コロナウイルス感染症患者の専用病棟 41 床（うち重症者用病床 8 床）を設置し、診療提供体制等の整備を行った。また、酒田市の依頼を受け、新型コロナウイルスワクチン個別接種を実施した。

【実績】新型コロナウイルスワクチン個別接種実施数

区 分	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目
日本海総合病院	69 名	97 名	852 名	592 名	208 名
日本海酒田リハビリテーション病院	—	—	—	—	—
日本海八幡クリニック	—	5 名	141 名	1,358 名	1,080 名
松山診療所	—	1 名	2 名	343 名	230 名
飛島診療所	—	—	99 名	93 名	—

- ④ 高額な医療機器・施設整備の更新及び整備について、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な整備計画のもとに行い、計画どおりの更新・整備が実施できた。

【医療機器・施設整備の計画】 (単位：百万円)

区 分	実 績	財 源
資本支出		
建設改良費	975	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	511	
医療機器	583	
ソフトウェア	27	
建設仮勘定	△146	

## 2 積立金の使途

前中期目標期間の繰越積立金については、施設の整備・修繕、医療機器の購入等に充てた。

## 3 その他法人の業務運営に関する事項

- ① 酒田市・公益財団法人やまがた健康推進機構および診療所等との連携、機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診実施体制の充実を図った。

酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、胸部 CT、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査を受託し実施した。酒田市の内視鏡ドックと併せ、PET/CT 検査の受診促進のため、市民に周知した。

【実績】検診等

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
内視鏡ドック	80 件	78 件	93 件
P E T / C T 検診	53 件	46 件	59 件

酒田市のふるさと納税ドックは、新型コロナウイルス感染拡大で延期となっていた令和元年申込の 2 名を実施した。

【実績】ふるさと納税

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1泊2日（ドック）	0件	1件	0件
2泊3日（ドック、PET）	0件	0件	0件
PET／CT（半日）	0件	0件	2件

- ② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」により三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、通年で事業を継続して実施した。

また、定員9名とし当日予約の受入れや事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受診付添いサービス及び保育園等からの病児送迎サービスを実施した。

【実績】病児・病後児保育次号延べ利用者数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者数	292名	542名	396名
うち職員利用数	153名	235名	167名

【実績】受診付添サービス等利用者

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
受診付添サービス	3名	3名	0名
病児送迎サービス	0名	1名	1名

※令和元年度からサービス開始